

# 漢方の待合室

No.19  
2007 JANUARY

## 痔のお話

### ■痔に対する生活習慣上の注意点

痔の予防には、便秘をしないこと、お尻を冷やさないこと、肛門部を清潔に保つことなどが挙げられます。日常生活では、朝食をきちんと取り、無理のない正しい排便の習慣をつけることが大切です。また食物繊維を多く含んだ野菜を食事に取り入れると、腸の蠕動運動が活発になり、食物繊維が水分を吸収するため、便が軟らかくなり排便しやすくなります。

長時間の立ち仕事や座り放しなどは、腸の動きや肛門周囲の血行が悪くなるため、時々休息を入れ、適度な運動を心がけましょう。なお食養生としては、刺激の強い食べ物は避けたいものです。

### ■痔の漢方治療について

痔の漢方治療の原則としては、便通をつけ排便時の痛みを軽減し、肛門部の血流を改善することです。その目的で各種の漢方薬が使われます。

処方名	使用目標
乙字湯	痔一般、痔核の脱出、脱肛、便秘
芎帰膠艾湯	痔出血
補中益気湯	脱肛
紫雲膏（軟膏・坐薬）	痔出血、肛門裂、痔核や脱肛の疼痛

## 今日の漢方処方 ..... 乙字湯《方函口訣》

激しい症状はないが便秘するものの切れ痔、イボ痔に使用する。

### 乙字湯の構成生薬

サイ	コ	トウ	キ
柴	胡	当	帰
ショウ	マ	ダイ	オウ
升	麻	大	黄
オウ	ゴン	カン	ソウ
黄	苓	甘	草

## 乙字湯のお話

乙字湯は、江戸時代水戸藩の侍医の一人である原南陽の創方です。原南陽は、自製の常用処方に甲、乙、丙、丁といった十干の文字を付けて命名しました。この乙字湯は、原南陽の常用第二処方といった意味合いで名付けられました。現在用いられている乙字湯は、幕末から明治にかけて活躍した漢方の名医である浅田宗伯が、原南陽の乙字湯から大棗と生姜を除き当帰を加えたものです。

### ● 升 麻 ●

キンボウゲ科サラシナショウマの根茎を乾燥したもの。

サラシナショウマは8月中旬頃から野山に白い花を咲かせ、小さな花が集まった白いブラシのような花穂が目を引きまします。升麻は神農本草経では上品に分類され、適応症としては頭痛、喉痛、脱肛、子



宮脱などがあります。薬理作用は、鎮痛作用、鎮静・鎮痙作用、解熱作用が認められ、漢方処方の乙字湯、補中益気湯、立効散などに配合されています。日本の産地は長野県、群馬県、富山県などですが、市場品は中国からの輸入品です。